

アナログプレイヤーの比較試聴(30)

—モーツアルトを聴く(30)—

1. 始めに

前報(29)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は、ThorensTD124とGrrad401の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ協奏曲です。

ESOTERIC (DECCA) ESLP-10001

モーツアルト ピアノ協奏曲第20番

ピアノ協奏曲第27番

クリフォード・カーゾン (ピアノ)

ベンジャミン・ブリテン指揮イギリス室内管弦楽団

PHILIPS X-7540

モーツアルト ピアノ協奏曲第27番

ピアノ協奏曲第18番

アルフレッド・ブレンデル (ピアノ)

ネヴィル・マリナー指揮アカデミー室内管弦楽団

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1を使用していきます。また、LINN LP-12の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを2ヶ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告したTruPhaseから300Bアンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用しています。

さらに今回からダンパーフレークの導入(5)で報告したとおりThorensTD124とGrrad401のカートリッジシェルにもダンパーフレークを適用しています。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ESOTERIC (DECCA) 盤は、ZANDEN Model120経由のLINN LP-12とThorensTD124では、DECCA、逆相、第4時定数Highで聴いていきます。

PHILIPS 盤は、ZANDEN Model120経由のLINN LP-12とThorensTD124では、RIAA、正相、第4時定数Highで聴いていきます。

カーゾン盤はThorensTD124では、ESOTERICのリマスター盤の以前の印象の音

の固さは感じられず、ディテールの再現は十分ではありませんが、華やかなカーゾンのピアノリズムが感じられます。

LINN LP-12 では、以前の印象の音の固さは感じられず、カーゾンの絶妙なピアノリズムの優雅な演奏が感じられます。

Grrad401 では、以前の印象の音の固さは感じられず、おおらかで柔らかいピアノが聴けます。

ブレンデル盤は、ThorensTD124 では、SPU の個性的な表現は後退した感はありませんが、中庸で端正な音になっています。

LINN LP-12 では、中庸で端正な音は ThorensTD124 と同様ですが、さらにディテールの再現に優れ、ピアノの響きも豊かです。

Grrad401 では、これまでの力強いが、やや粗削りな印象が後退して、緻密な表現ができるようになり、ThorensTD124 に近接した音になってきています。

4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、さらに、カートリッジのシェルへのダンパーフレークの適用効果もあって、すべてにおいて、グレード上がってきている印象です。

以上